# 9月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手　舘野　健一

## 行った主な活動

### 選果調整作業



9月10日から販売所での選果調整作業に入り、収穫したブドウを「商品」として仕上げる工程を学んだ。房形、粒の大きさや揃い、傷・裂果・病害虫被害の有無、軸の状態を確認し、不要な粒を取り除きながら見た目を整え、重量を確認して規格に合わせる作業を行った。

特にシャインマスカットなどは、同じ房でも粒の張りや形に差があり、房全体のバランスを見ながら手直しする必要があった。選果後は緩衝材や容器への収まり、持ち上げた際の房崩れがないかも確認し、販売時の見栄えを意識して丁寧に扱った。

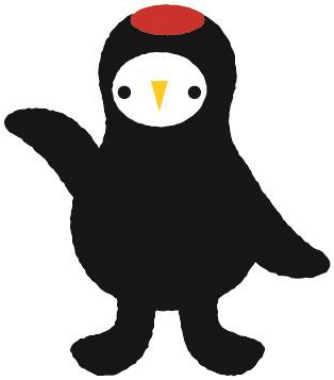
販売所で作業することで、栽培段階だけでなく、お客様が実際に手に取る状態まで責任を持って品質を見ることの重要性を学んだ。

### 草刈り作業



9月は、収穫・選果作業と並行しながら、園内の草刈り・雑草処理を行った。通路や棚下、株元周辺の伸びた草を刈り、作業時の足元と移動経路を確保した。草が繁茂すると、収穫物の運搬や圃場内の移動がしにくくなるだけでなく、風通しが悪くなり湿気がこもりやすくなるため、収穫期であっても園内を清潔に保つことが重要である。

作業では、ブドウの幹や支柱、かん水設備などを傷つけないよう周囲を確認しながら進め、刈り残しや刈草の偏りがないよう整えた。収穫・選果と雑草管理を並行して行うことで、安全で効率的な作業環境を維持する大切さを学んだ。



# 9月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手　舘野　健一

## 活動を行った感想など

9月は、これまで圃場で行ってきた栽培管理に加え、販売所で選果調整を経験したことで、「良いブドウを作ること」と「商品として仕上げること」の両方を考える月となった。

選果では、房の見た目だけでなく、粒の揃い方、傷の位置、軸の状態、重量、箱や容器に収めたときの見栄えまで確認する必要があり、判断の速さと正確さが求められた。最初は一房ごとの判断に時間がかかったが、繰り返す中で、販売できる房、手直しが必要な房、販売に向かない房の違いを少しずつ理解できるようになった。また、同じ品種でも房ごとに状態が異なるため、決められた基準だけでなく、全体のバランスを見て判断する力が必要だと感じた。

一方、収穫・選果を優先する時期は、園内の雑草管理が後回しになりやすいことも課題として感じた。草が伸びると通路が狭くなり、収穫かごや資材を持って移動する際の負担が増えるほか、足元が見えにくくなって転倒や機械接触の危険も高まる。また、棚下や株元に雑草が繁茂すると園内の風通しが悪くなり、湿気がこもる原因にもなるため、品質管理とは別の作業ではなく、ブドウ栽培を支える基本管理の一つとして継続する必要があると実感した。

草刈りでは、幹や支柱、設備周辺を傷つけないよう確認しながら作業し、刈った草の状態や作業後の動線も確認した。今後は収穫・選果の予定だけでなく、草の伸び方も見ながら作業日を組み込み、販売期でも圃場を安全で作業しやすい状態に保てるようにしたい。

## 今後の目標など

今後は、選果調整で学んだ商品基準を栽培管理に反映し、収穫直前になってから手直しを増やすのではなく、摘粒・袋掛け・病害虫管理の各段階で最終的な商品姿をイメージして作業する。特に、傷・裂果・腐敗粒・病害虫被害の早期発見を徹底し、健全な果房を最後まで維持できる管理を身につけたい。重量や房形などの選果基準も品種ごとに整理し、作業者が変わっても同じ考え方で判断できるよう、自分なりの基準を記録していく。

また、草刈りについては、草丈が高くなってからまとめて対応するのではなく、収穫・選果作業の予定と組み合わせて定期的に実施し、通路、棚下、株元周辺を清潔に保つ。作業動線の確保、風通しの改善、病害虫リスクの低減、安全性の向上につながるよう、園内環境の管理を計画的に進めたい。

また、販売所でのお客様の反応や売れ方を観察し、「見た目」「食味」「粒の大きさ」「価格」のどこが購入判断につながるのかを把握し、翌年の栽培や販売方法に生かしたい。収穫・選果・包装の各工程で果実を傷めない扱い方を身につけ、販売後まで品質を保てるようにすることも目標とする。今月の選果基準、収穫した果房の状態、草刈りの実施状況を日誌や写真に残し、来年度の作業時期と順序を組み立てる資料として活用する。将来の独立就農に向けて、栽培から収穫、選果、包装、販売に加え、圃場環境の維持管理まで一連の流れを自分で計画・実行できるよう、品質を見る力、作業の正確性、効率、安全管理の視点をさらに高めていく。

